

目 次

I	総合学科と科目選択	
1.	西目高校総合学科の目標	2
2.	総合学科の特色	2
3.	科目選択について	3
	<参考1>総合的な学習の時間(新志芽学)について	5
	<参考2>履修と修得、卒業の認定について	7
	<参考3>増加単位について	8
II	学習ガイド	9
III	科目選択の仕方	
1.	科目選択をする上での心構え	28
2.	科目選択の実際	28
3.	科目の関連について	30
IV	科目ガイド	
1.	一年次の科目について	31
2.	二・三年次の科目について	33
3.	科目シラバス	34
	① 国語	35
	② 地理歴史・公民	38
	③ 数学	43
	④ 理科	48
	⑤ 保健体育	53
	⑥ 芸術	55
	⑦ 外国語・英語	63
	⑧ 家庭	67
	⑨ 福祉	71
	⑩ 情報	72
	⑪ 農業	73
	⑫ 工業(土木)	82
	⑬ 商業	88
	⑭ 総合	94

I 総合学科と科目選択

1. 西目高校総合学科の目標

現代の社会は大きく変化し、産業や技術も近年驚異的に進歩しつつあります。そうした社会の動きを見据えながら、自分の適性や興味・関心を生かした学習を積み重ね、そして将来の進路について深く考え、個性を伸ばし、これからの社会の変化に自ら積極的に対応できる力を身につけます。

本校は、教育目標として次のような人間像を理想としています。

- (1) 自ら学ぶ意欲と態度を培い、情操豊かで創造性に富む人間
- (2) 勤労と責任を重んじ、郷土の発展に貢献する人間
- (3) 心身ともに健康で、思いやりのある心豊かな人間
- (4) 国際化、情報化など社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生き抜く人間

以上の教育目標を実現するために種々の活動が行われています。

2. 総合学科の特色

総合学科は、普通科目と専門科目を選択して総合的に学ぶことができる新たな学科としてつくられました。その特色としては、次のようなことがあげられます。

- (1) 将来、自分が就く職業を考えて学習をしていきます。そのための科目や、進路のことを考える科目が開設されています。
- (2) 学ぶということはどういうことか、学ぶ楽しさや成就感を体験できるような実践的・体験的な学習、また個性を生かすことができるように幅広い選択科目が設けられています。
- (3) 単位制となっています。単位制とは、「3年間で、決められた単位を取得することによって卒業要件を満たす」という制度です。各学年において、所定の単位を取得できない場合の「原級留置」、いわゆる「留年」は原則としてありません。

3. 科目選択について

(1) 科目選択とは何か

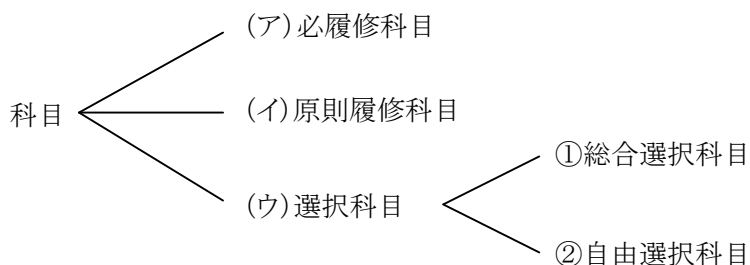
西目高校の総合学科では、三年間で学ぶ科目のほぼ半数を自分に必要な科目として選んで学びます。生徒一人一人が自分の適性や興味・関心を生かし、自分に最もふさわしい進路を目指し、個性を伸ばしてほしいからです。

しかしながら、自分で科目を選ぶということはたいへん魅力的であると同時に重大な責任があることを意味します。それはどのような責任でしょうか？科目を選んで学ぶということは、実は自分の人生計画を立てることを意味するからです。いいかげんな気持ちで科目選択をすれば、自分の人生を自分で壊してしまうことになりかねません。それは自分だけのことだから別にどうだろうと構わないのではないかと考える人がいるかもしれません。しかしそれは間違っています。自分の人生は自分のものであると同時に周囲の人たちのものでもあるわけですから。自分の職業に誇りを持つことができるようにしたいものです。

そのために、「Ⅲ 科目選択の仕方」をよく読んで、じっくり考えながら間違いのない科目選択をしてください。

(2) 科目構成

総合学科の科目は次のように分類されます。



(ア) 必履修科目

高等学校の生徒が必ず学ばなければならない科目です。本校の教育課程においては、その種類は下の表のようになります。

単位数とは……1週間にその科目を何時間学習するかを表します。たとえば、4単位ならば1週間に4時間ずつ1年間学習することになります。

教 科	科 目	単位数	履修年次	備考
国 語	国 語 総 合	4	1年	
地 理 歴 史	世 界 史 A	2	1年	
	日 本 史 A	2	3年	3科目から1科目選択 (日本史 B は2年次の増単)
	日 本 史 B	4		
	地 理 A	2		
公 民	現 代 社 会	2	2年	
数 学	数 学 I	3・4	1年	文理系列選択者は4単位 文理以外の系列選択者は3単位
理 科	化 学 基 礎	2	1年	
	物 理 基 礎	2	2年	いずれか1科目選択
	生 物 基 礎	2		
	科学と人間生活	2	3年	いずれか1科目選択
地 学 基 礎	2			
保 健 体 育	体 育	7	1, 2, 3年	
	保 健	2	1, 2年	
芸 術	音 楽 I	2	1年	3科目から1科目選択
	美 術 I	2		
	書 道 I	2		
外 国 語	コミュニケーション英語 I	3・6	1年	文理系列選択者は6単位 文理以外の系列選択者は3単位
家 庭	家 庭 基 礎	2	1年	
情 報	情 報 の 科 学	2	1年	

(イ)原則履修科目「産業社会と人間」

自分の進路について深く考え、将来の職業生活の基礎となる知識や技術、態度や考え方を身につけるために、総合学科の生徒が一年次で全員学ぶ科目です。その内容は次のようになります。

- ・「職業と生活」「我が国の産業の発展と社会の変化」「進路と自己実現」について学習します。
- ・さまざまな体験学習を通して、自分で考え発見していく学習をします。
- ・二、三年次で学習する科目の選択を行います。

「産業社会と人間」学習内容(過去の例)			
4月	系列別体験授業、科目選択説明会	10月	栽培実習のまとめ、性教育講話
5月	栽培実習、職業と資格	11月	職場体験学習、進路を考える
6月	職場施設見学	12月	科目選択
7月	体験発表会、性教育講座	1月	マイライフプラン作成
8月	先輩講話、科目選択	2月	マイライフプラン発表会
9月	社会人講話、科目選択	3月	1年間のまとめ

<参考1>

「総合的な学習の時間」(新志芽学)について

西目高校総合学科ではどのような生徒を育てたいのか、明確な目標があります。2ページにも書きましたが、もう一度復習してみましょう。

「社会の進展や産業技術の進歩を踏まえ、生徒の適性や興味・関心に基づいた学習を通して、将来の進路への自覚を深めさせるとともに個性の伸長を図り、社会の変化に積極的かつ主体的に対応できる人材を育成する。」

進路実現をめざして、みなさんは自分にあった科目を選択して学習するわけですが、それらの科目を相互に関連させ、自らの骨や肉とするのがこの「総合的な学習の時間」です。

何のために、なぜ勉強するのかをあらためて考える時間、そして今まで学習したことを応用して自分の真の実力を試す時間、としてとらえてください。

二年次では週に1時間あります。内容は、一年次で履修した「産業社会と人間」からさらに発展して社会の情勢とそこにおける自分について、テーマ学習をし、また三年次で行う課題研究の計画を行います。三年次は週に2時間、二年次の学習を深めるなど二年次に立てた計画に従って課題研究をします。

これらの学習は決して易しくはありません。教科書の内容を暗記するのと違って、何について学ぶのかは自分で考えなければならないのです。ある問題や自分で決めた課題について仮説を立て、検証や調査、実験をし、結果を出してそれを他の人に分かるようにまとめる練習をするという勉強は、ある意味将来に大きな影響を及ぼすことになるかもしれません。社会で活躍している人は概ね、生涯の基盤を十代や二十代前半の若いうちにつくっています。自分で考え、自分で決定し、自分で責任を持つことが上に述べた人間となることの基本にあるわけです。

したがって、数値の評価は出しません。何をどのように努力し、どんな変化が見られ、成長したかが記録されます。

西目高校では三年間で90単位分(最大96単位分)の科目を学ぶことができます。このうち、44～51単位分の科目を選択します。まとまった力を身につけることができるように、そして科目選択の手助けとなるように、選択科目は「総合選択科目」と「自由選択科目」の2種類に分けられています。

① 総合選択科目

総合選択科目は、ある程度体系的・専門的にまとまった学習ができるように関連する科目をまとめ、科目群として開設されています。この群を系列といいます。系列の中の科目をまとめて選択すると将来の進路に役立ちます。

系列の種類

系 列	内容と目的
文 理	普通教科の科目を重点的に学習し、社会や文化、自然についての知識・理解を深め、大学・短大などへの進学に対応できる能力と態度を身につけます。
農 業 科 学	農業生産や経営・流通およびバイオテクノロジー等に関する知識と技術を学習し、地域農業の発展や関連する産業へ対応できる能力と態度を身につけます。
土 木	土木に関する基礎的・基本的な知識や技術を学習し、環境に対する理解を深めながら、地域社会に貢献する能力と態度を身につけます。
ビジネス会計	ビジネスに関する分野についての基礎的・基本的な知識と技術を学習し、情報を活用しながら進展する経済社会に適切に対応できる能力と態度を身につけます。
教 養 文 化	一般教養を深めるとともに、各種文化について総合的に学びながら、地域・社会に貢献する意欲と態度を身につけます。

② 自由選択科目

総合選択科目以外の科目で、みなさんの興味・関心に基づいて選択できる科目です。二年次から選択できます。

※①、②ともに具体的にどんな科目があるかは、科目シラバスを見てください。

<参考2>

「履修」と「修得」、卒業の認定について

本校の教務規定では、「履修」と「修得」について以下のように定めています。

履修と修得の認定

学校が定めた教育課程に従って各教科・科目の目標に到達するために授業に参加し授業を受け、欠課時数が授業実施時数の1/3以下の場合は、その教科・科目を履修したものとす。

(第11条より)

教科・科目の履修が認定され、かつ評定が「2」以上の場合は、その教科・科目の単位を修得したものとす。

(第12条より)

「履修」が「修得」の前提条件です。欠課時数が規定を超えると「未履修」となり、その時点で単位修得ができなくなります。

二年次や三年次の科目を選択する際に、「一年次で、〇〇の科目を履修していること」等のように条件が付くことがあります。

卒業するためには以下の条件を満たしていなければいけません。

卒業認定の条件

本校で定めた必履修科目及び原則履修科目の履修がすべて認定されていること。

本校が定める各教科・科目の修得単位数が74単位以上であること。

特別活動がその目標から見て、満足できると認められること。

(第17条より抜粋)

したがって、ただ好き勝手に科目を選択して、必履修科目を履修していなかった、ということであれば卒業できなくなります。

西目高校総合学科は単位制なので、原則として原級留置(留年)ということはありません。必履修科目が「未履修」になったときは、次の年度に下の学年の授業を再履修します。しかし、時間割の関係上、再履修したい科目の時間が、自分の学年の必履修科目の時間と重なったりすることもあり、三年間で卒業することができない場合もあります。欠課時数を増やさずにきちんと出席するようにしてください。

<参考3>

増加単位について

(1) 技能審査の成果の単位認定

決められた上位の資格や検定に合格すると、その資格や検定に対応する科目の単位に1～3単位を加えて修得することができます。対応する科目がない場合、「学修 B」という単位になります。このようにして、単位を多くとることができます。本校では資格や検定の取得を大いに奨励していますので挑戦してみてください。

(2) その他の学校外活動による単位認定

ボランティア活動、就業体験……………学修 C

例 小学校への高校生助手派遣

スポーツ又は文化に関する分野の成果……学修 D

II 学習ガイド

1. 国語

(1) 学習へ向かう心構え

国語はすべての教科の基礎を支える重要教科です。国語の十分な学習なしでは、理解し表現する力は身につけません。しかも短時間で成果のあがるものでもありません。一年の時から努力を積み重ねていくことが必要なのです。そのためにも普通の授業をしっかりと受けてください。そして授業の前には必ず予習をしてください。予習をして授業を受けるのと、そうでないのでは、理解力に大きな開きが出てきます。授業を大切に、真剣に受けることが、国語の力を高める秘訣です。学問に王道なしです。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

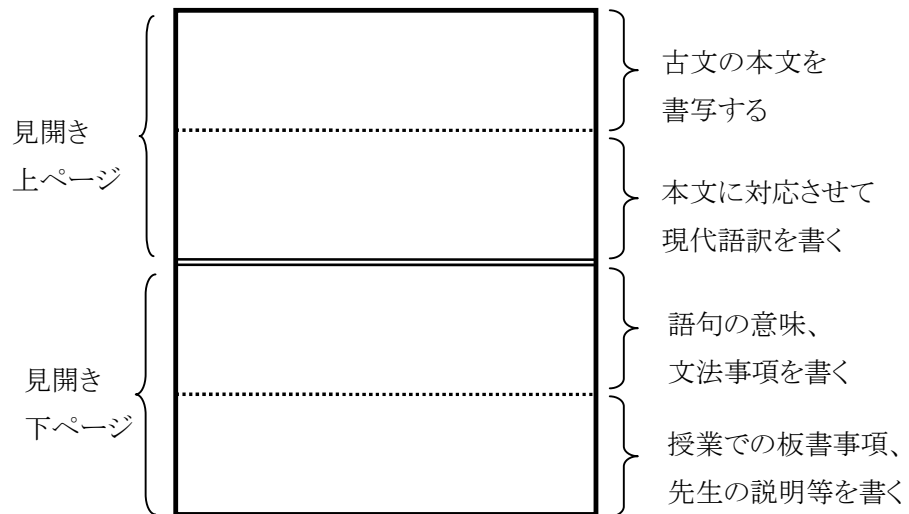
① 現代文の学習方法

- ◎ 現代文の予習をします。まずは教科書の文章を何度も「音読」することです。次に全体の流れをつかみ、疑問点を明確にし、授業に臨む準備をしましょう。
- ◎ 語句の意味は辞書を使って調べておくこと。あいまいな知識のままにしておいてはいけません。辞書は面倒がらずに引きましょう。
- ◎ 基礎的な国語の力をつけていくためにも、漢字の練習が必要。教科書の中の漢字はもちろんのこと、様々な機会を利用して書く練習をしてみましょう。繰り返し練習することが大切です。全校漢字テスト、漢字能力検定も大いに活用しましょう。
- ◎ 授業では、集中して先生の話を聞き、疑問点はそのつど質問をして解決しておくこと。また、先生の質問には必ず自分なりの答えを出し、ノートに書くことです。そして先生の答えと照らして、自分の答えはどこが不十分なのか確認することが大切です。ノートには、板書事項の他に、必要と思われることはどんどん書くことです。
- ◎ 教科書にある設問は、あらかじめ家庭学習で解いておくこと。
- ◎ 段落ごとの要旨や全体の要旨をまとめる練習をすること。ポイントをまとめて書く力は「理解」「表現」する力につながるはずです。
- ◎ 読書の習慣を身につけましょう。国語の力は読書量と密接に結びついています。少々難しいと思われるものに挑戦することが、自己の向上につながります。夏休みの宿題となる読書感想文もよい機会です。

② 古文の学習方法

- ◎ 古文の予習をします。現代文と同様に「音読」をします。音読は最低5回以上はしてください。この時は仮名遣いに十分注意しながら音読することが必要です。正しい音読を繰り返すことにより、古文特有のリズムにも慣れ、概要も把握できるようになります。代表的な古文は暗唱するくらいになりましょう。
- ◎ 授業に入る前に、教材の古文をノートに書写すること。ノートの使い方は次の例を参考にしてください。

※ここに例を挙げた方法は、ノートの見開き2ページを使うものです。両ページとも2段に分けて線を引いておきます。

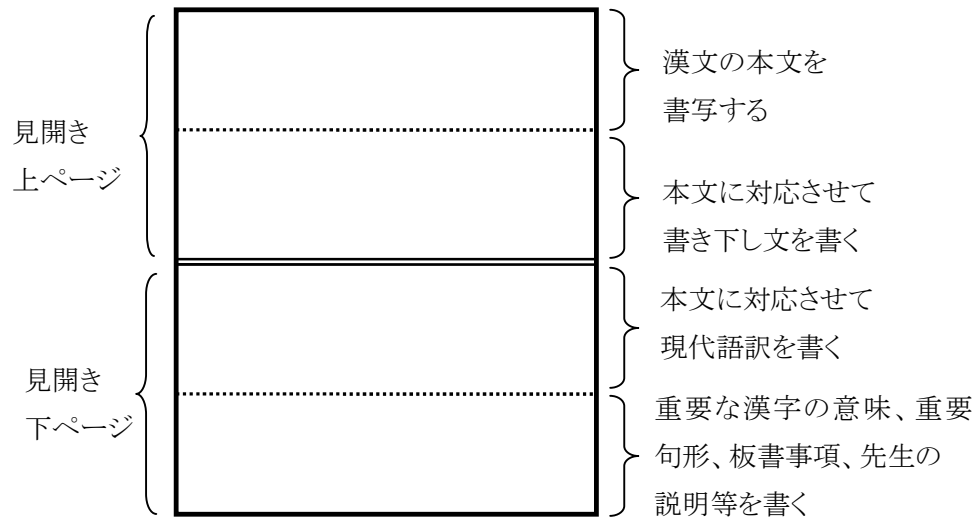


このようにノートを使えば、古文の本文に対応させて、一目で内容がわかるようになると思います。

- ◎ 古文も語句の意味は辞書を使って調べておくこと。現代語と同じ言葉でも意味が違う場合がありますので注意しましょう。そのためにもおっくうがらずに辞書をひき意味をノートに書いていきましょう。また文脈の中で意味を把握していくことも大切になります。
 - ◎ 古文を正しく解釈するためには、文法の知識が必要になります。一年次では、用言(動詞・形容詞・形容動詞)と助動詞を、二年次では助詞と敬語法を、系統的にマスターしていけるようにしていきましょう。これも繰り返しが大切です。
 - ◎ 授業では積極的に問題意識を持ち、その解決に努めることが大切です。
 - ◎ 授業で学んだことはその日のうちに復習し、身につけておきましょう。
- ③ 漢文の学習方法
- ◎ 漢文の予習をします。漢文も「音読」が非常に大切。暗唱できるくらいに繰り返し読み込みましょう。
 - ◎ 漢文のノートの使い方の例を挙げます。教科書の文章を訓点もつけて、授業に入る前にノートに写しておきます。

※教科書の文章を何度も音読し、その文章を訓点もつけてノートに書写することが、予習で最低限しておかなければならないことです。

※ここに例を挙げた方法は、ノートの見開き2ページを使うものです。両ページとも2段に分けて線を引いておきます。



このようにノートを使えば、漢文の本文に対応させて、一目で内容がわかるようになると思います。

書き下し文とは漢文を音読する通りに漢字仮名まじりで書いたものをいいます。(書き方については授業で改めて説明があります。)

- ◎ 漢文特有の難読語彙の基本的な読みや意味は十分注意し、覚えること。また、基本句形も把握し、書き下し文や現代語訳が正確にできるようになることが大切です。
- ◎ 漢和辞典を活用して、漢字の知識を広めていきましょう。
- ◎ 最後に、教科書の文章に習熟することが漢文の力をつける一番の秘訣です。

(3) 評価の方法

国語の評価観点は次の5点です。

- ① 関心・意欲・態度～予習、復習をきちんと行い、授業に集中し、意欲・関心を持って疑問点を解決しようとしているか。
- ② 話す・聞く能力～様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べることや、相手の立場や考えを尊重して話すことができるか。目的や場に応じて、効果的に話したり、的確に聞き取ったりすることができるか。
- ③ 書く能力～相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くことや、論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめることができるか。
- ④ 読む能力～文脈の中における語句の意味、用法を理解しているか。また、文章の論理展開の方法を的確に捉え、内容を理解して、自分の感想や意見を持つことができるか。
- ⑤ 知識・理解～音声、語句、語彙、文法、漢字などの基礎的事項について理解し、その知識を身につけているか。

学習成績の評点は、100点満点となります。評価は各考査の成績と日常の学習活動全般を見て総合的に評価します。原則として考査の成績が70点分、全校漢字テストの成績を含む日常の学習活動が20点分(平常点)、全校漢字テストの成績が10点分となります。

なお、日常の学習活動については、主に次の点について評価します。

- 授業に積極的に取り組んでいるか。
- 提出物を期日までに提出したか。(ノート、課題、問題集、作文など)
- 全校漢字テスト、読書感想文に積極的に取り組み、よい成績をあげるために努力しているか。

教科担当の先生の指示に従い、主体的に学習に取り組む習慣をつくりましょう。

2. 地理歴史、公民

(1) 学習へ向かう心構え

地理歴史、公民の学習内容は、小学校・中学校の社会科で学習した内容と重なる部分や、それをより深めた内容によって構成されています。ここで学ぶ基礎的・基本的な事柄は、高校生として身につけてほしい教養であると同時に、将来日本国民として生きていくために必要な知識・常識でもあります。3年生になって、進学や就職の際の試験で出題されます。

また、日頃からテレビや新聞などで社会のできごとに関心を持って、いろいろなテーマについて自分なりに考えてみるのが、授業での学習内容の理解を助けてくれることでしょう。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

事前に教科書を読んでおけば授業を理解しやすくなります。授業中は教師の話をよく聞いて、ノートをとってください。ノートは、試験前の復習の際に重要事項を整理するのに役立ちます。考査対策としては、教科書準拠のワークブックや復習用の練習プリントなどが配布されますので、しっかり復習して試験に臨んでください。

(3) 評価の方法

地理歴史、公民では評価の観点はこの4つになっています。

- 関心を持って意欲的に学習したか。
- 学習事項から課題を見いだして広い視野に立って考え、公正な判断ができたか。
- さまざまな資料を活用したり、調べた事柄を適切に表現できたか。
- 基本的な事柄をよく理解し、知識を身につけたか。

学習成績の評点は、100点満点となります。評価は各考査の成績と、日常の学習活動全般をみて総合的に行います。原則として考査の成績が7割前後、日常の学習活動が3割前後となります。なお、日常の学習活動については、ノートや作業用プリント、その他課題の記述、提出状況をもとに、授業に積極的に参加していたかどうかをおもに評価します。

担当教師の指示に従って、進んで学習に取り組みましょう。

3. 数学

(1) 学習に向かう心構え

数学は、積み重ねがとても大切な教科です。中学校でもそうであったように、1年生の内容が2年生の内容に、そして2年生の内容が3年生の内容に続きます。階段を一段一段確かめながら上るように、一つひとつの内容をおろそかにしないで、理解できるようにがんばりましょう。

(2) 学習方法

数学に限らず、高校での学習は、「予習」→「授業」→「復習」の繰り返しが大切です。

○予習： 次の日の授業で勉強する予定の内容について、教科書に目を通しておきましょう。そして、分からない部分にアンダーラインを引いておくのと効果的です。また、余裕のある人は、練習問題にもチャレンジしてみましょう。

○授業： 予習の時に分からなかった公式の使い方、問題の解き方、式変形の仕方など自分にとって聞き逃してはいけないポイントを認識して参加しましょう。黒板に書かれたことは大事ですが、写すことに一生懸命になりすぎてもいけません。ノート作成は復習をする際に活用できる程度にして、説明を「顔を上げて」聞くことを心がけてください。

○復習： 授業の時の説明をまとめながら、宿題をやり、教科書の練習問題や問題集・ワークブックの問題を解きましょう。繰り返し問題演習することが大切です。模範解答を見ないで解くことができるようになるまでがんばりましょう。

(3) 評価の方法

数学では、評価の観点は次の4つになっています。

- 数学的なものの見方や考え方のよさを知り、事象の考察に積極的に活用しようとしたか。
(これまでに学んだ数学の知識を様々な場面で利用できているか。)
- 数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身につけたか。
(新たに学んだ分野の用語や記号を覚え、適切に使うことができるか。)
- 事象を数学的な見方で捉え、論理的に考え、過程を多面的・発展的に振り返ったか。
(自分の考えや他人の考えをよく吟味して、正しい方法を見分けられるか。)
- 数学的な考え方、表現・処理・推論の方法を身に付け、よりよい方法で問題を解決したか。
(授業で学んだ公式や計算方法などを利用して応用問題が解けるか。)

学習成績の評点は、100点満点となります。評価は各考査の成績と、日常の学習活動全般をみて総合的に評価します。原則として考査の成績が70点分、日常の学習活動が30点分となります。

なお、日常の学習活動については、主に次の点について評価します。

- 授業中に説明をよく聞き、真剣に考え、積極的に問題を解くなど、意欲がみられたか。
- ノートやワークブック、プリントなどの提出物を丁寧に仕上げ、期限を守って提出したか。

(4) 数学検定について

年間2～3回、校内で「実用数学技能検定」(日本数学検定協会)を実施します。受検希望者には過去問題の配布や補習を行います。

1年生では3級から準2級、2・3年生は準2級以上の取得を目指して積極的に受検してみましょう。

3 級 1次:計算技能 60 分, 2次:数理技能 60 分

準2級 1次:計算技能 60 分, 2次:数理技能 90 分

2 級 1次:計算技能 60 分, 2次:数理技能 90 分

4. 理科

(1) 学習へ向かう心構え

理科も数学と同じく論理的に、あるいは筋道を立てて考えることが物理・化学・生物・地学の4分野を通して必要です。したがって、一夜漬け的な学習では覚えきれものではありません。日常生活の中でいろいろな自然現象に目を向けて「なぜだろう」と疑問をもち、常日頃から考える訓練が大切です。

授業中に先生が数々の質問をします。他の人が指名されても自分ならどう回答をするか常々頭の中で考えてみましょう。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

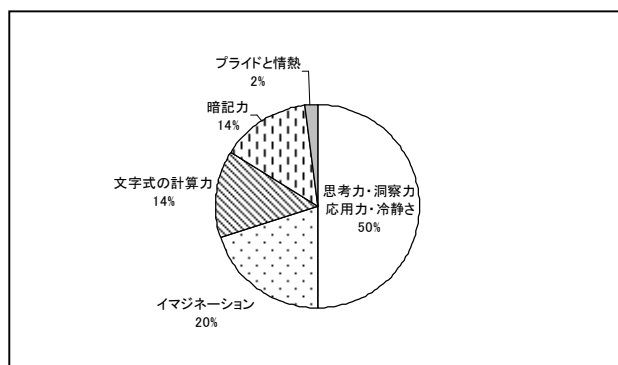
中学校の教科書は捨てたり、押入れにしまわないで机の上に出しておきましょう。高校の理科をやるための基本になります。

問題集は1冊を十分に使うことです。まず、終わりまで自分で一通りやってみる。すぐ解答を見てはいけません。解答を見たら、もう一度最初からやってみて最後までやれるか確かめてみましょう。(特に計算問題)

★物理分野について

○考え込む力が要求される

授業で習った法則を使って、身の回りの現象を説明できるか。現象に関与している法則を全て挙げるができるか。思考力と応用力、そして緻密さが要求される学問です。



○自然界を支配する法則は極わずか

物理は「覚える」科目ではありません。「考え」「理解し」その結果を現実世界に「当てはめる」科目です。ある程度の記憶力は必要ですが、法則の使い方さえマスターすればかなりのレベルに到達できます。

○数学ができると鬼に金棒

物理では数学を道具として利用します。得意である必要はありませんが、嫌いでない程度には親しんでください。三角関数、指数、対数、ベクトル、微分積分、行列、2次曲線を知っているのと知らないのとでは天と地の差が出ます。

○イメージネーションを豊かに

物理は「物事の本質を見る」という性質上、非常に簡単化(モデル化)された現象を扱うことが多くなります。自動車も、ロケットも、原子や光もすべて「石ころ」になってしまいます。この一見つまらない現象を、如何に実世界の現象と結びつけて考えることができるか。頭の中でイメージできるかどうか、理解の分かれ目になります。

○好きこそものの上手なれ

物理を勉強しているという誇りとプライド、それがあればいつかはマスターできるはずです。

★化学分野について

積み重ねが必要です。それぞれの事柄はお互いに関連しておりひとつ理解できないことがあると他に影響があります。文句なしに暗記することも少しあります。公式はあまりないが、小数の掛け算、割り算は自由にできる力が必要です。練習しておきましょう。

★生物分野について

第一に、言語力が必要と思われる。さまざまな名称が登場するが、その命名の由来を考えてほしい。そしておっくうがらずに記憶してほしい。また、計算もある。化学式の知識も必要である。しかし、何よりも、周囲の自然に目を向け、新聞などの記事にも敏感であってほしい。

生命現象は、身近なところで起こっている。なによりも私たち自身が生物学の‘‘実例’’であり、様々な生命現象もそれぞれの生物、器官、組織、細胞を自分に置き換え、その「立場」や「気分」になって、働きを考えてみよう。

図や表を描こう。細胞の構造は肉眼では見られない。また、細胞の分裂や個体の発生など、生命現象は時間とともに独特の形態変化を遂げていく。それらの模式図(モデル図)を何度も描き、自らに説明するように、そして他人にも説明できるようになることで、知識の理解ともの見方はいっそう深まる。

(3) 評価の方法

定期テストは、必要な知識を整理して覚えているか、原理・法則を理解しているか、考えながら問題を解いているかなどの面を確認する問題を出します。観察・実験レポート、製作物、発表、自己評価を見ながら日常の学習活動を評価します。ときにはテストの成績よりも重視することがあります。実験では観察、器具の取り扱いなどの姿勢や態度、レポートの完成度や期限内提出の具合などを重視します。

5. 保健体育

(1) 学習へ向かう心構え

〔体育〕体育の授業でいちばん大切なことは、自ら積極的に運動・スポーツに取り組む姿勢です。そのためには、自分の健康状態や安全面などに注意しながら、仲間と協力して計画的に運動することを心がけましょう。

〔保健〕保健では、自分たちや社会の中で健康であるための知識や方法を学習します。心身共に健康であるためにはどのように生活するべきか、またどのように行動するべきかなどを常に頭に置いて学習にのぞむことが大切です。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

〔体育〕授業をうける時の留意点としては、

- ① 自分自身の健康状態を把握し万全の体調であることが大切です。
- ② 仲間と協力しながら運動に取り組むことです。用具の準備や後片づけやゲームを進める時の作戦をたてるときなどチームメートと共に力を合わせて行動するようにしましょう。
- ③ ルールに沿って公正なプレーを心がけマナーを守りながらゲームをするようにしましょう。
- ④ 当たり前のことですが、常に学校で決められた体育着を着用し、正しい整容で取り組むようにしてください。

以上の点を守り、楽しく運動して気持ちのよい汗をかきましょう。

〔保健〕常に教科書・保健ノートを用意してください。また、新聞や雑誌などで健康に関する記事や情報などに関心を持ちながら学習に取り組む姿勢が大事です。

(3) 評価の方法

〔体育〕体育での評価の観点は、

- ① 自分から積極的に運動をしているか。
- ② 仲間と協力して仲良く運動しているか。
- ③ 自分で工夫して自分の能力にあった運動をしているか。
- ④ 基礎的・基本的な技術・技能を発揮しているか。
- ⑤ 体育の授業にふさわしい整容で運動しているか。

以上のような点で一人ひとりの目標に見合った評価をします。

〔保健〕保健の評価の観点は、

- ① 健康・安全に関する基礎的・基本的な知識が理解できたか。
- ② 身のまわりにある健康問題を自分のこととして捉えながら考え、行動できるか。

考查は100点満点で学期末の成績はテスト点70点満点、日常の学習点を30点満点として評価します。日常の学習では、他の教科と同じく授業に積極的に参加しているか、ノートなどの提出物をしっかりと提出しているか、などを参考にして評価します。

6. 芸術

(1) 学習へ向かう心構え

本校では自分の興味関心に合わせて、音楽、美術、書道の3つの中から科目を選択できます。様々な実技や鑑賞を通して、知識と技能を習得するだけでなく、芸術の中に自己を表現する力と、美しいものは美しい、良いものは良いと感じることのできる感性を育て、生涯に渡って芸術を愛好する心情を養います。真剣に授業に取り組めば、自分の意外な才能を発見して、卒業後の進路や将来の生活に役立てることもできます。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

①音楽

音楽の各分野(表現と鑑賞、創作)の各種演習を通して基本的技能と知識を習得します。魅力ある音楽は、人々の心を引きつけます。感性と知性を高めるべく真摯に音楽の魅力を探求し向き合っ
て取り組んでください。

②美術

主に表現と鑑賞の授業がありますが、多くは個人による作品制作となります。生涯学習の基礎づくりとして、よりよい表現をするためにじっくりと考える、自分なりの創意工夫をする、美術作品などを主体的に味わうなどの活動を通して、美しさを発見することや表現の喜びを味わうことを重視しています。

一時間一時間を大切に、美術を愛好する気持ちや感性を磨こうとする真摯な気持ちで授業に臨んでください。

③書道

(Ⅰ)多く書く (Ⅱ)多く見る (Ⅲ)多く聞く

この「三つの多」は、上達する上で大切な要素です。作品を真剣に書くと同時に、話を聞いて感じたり、友達の作品を真剣に見て感想を述べたりすることも大事にしていきます。書を得意とする生徒も、楽しく、真剣に取り組み、お互いの良さを見つけ合っていきましょう。自らの表現力を高めていこうと制作していくなかで、きっと新しい自分に出逢うことができるはずです。

(3) 評価の方法

①音楽

評価の観点は以下の通りです。

- さまざまな音楽を尊重しながら、自ら意欲的に取り組んでいるか。
- 良さや美しさの根拠を知覚し、表現を工夫しているか。
- 表現に必要なソルフェージュ力と基礎的技能を身につけているか。
- さまざまな音楽を鑑賞し、その特色や作曲者の心情や意図を知覚感受したか。

定期考査に代えて年間合計4回の試験(実技および筆記)を授業内で実施します。

授業での話や指示をよく聞き、意欲を持って主体的に演習活動や鑑賞に取り組んでいるかを評価します。普段の授業を大切にしましょう。

②美術

評価の観点は以下の通りです。

- 美術を愛好し、自ら喜びをもって生き生きと創造活動に取り組み、自分なりによりよい表現をしようとしているか。
- よさや美しさなどを感じ取る感性や発想力、想像力で表現を工夫しているか。
- 基礎的な表現技能に加えて、表現意図や構想にふさわしい自分なりの表現方法を試みているか。
- 美術作品の美しさを味わい、その特色や作者の意図、心情などを読み取り、美術と社会や生活との関わりを理解しているか。

授業態度、完成作品の提出状況、表現におけるアイデアスケッチや下描き・構想図、鑑賞におけるレポートや感想文などを評価していきます。また、定期考査に代えて、学習の成果を確認するテストを授業時間内に行います。

③書道

評価の観点は次の通りです。

- 意欲的、主体的に書の活動を行い、提出物等の期限を守っているか。
- 書のよさや美しさを感じ取り、表現を工夫して制作に取り組んでいるか。
- 自己を主体的に表現する能力を伸ばし、基礎的な技能を身につけているか。
- 書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を幅広く理解しているか。

授業への取り組み方、作品の提出状況、作品制作をする上での表現の工夫等を総合的に評価します。特に、意欲を持って取り組む姿勢を評価していきたいと思います。

7. 外国語（英語）

(1) 教科の内容

英語は日本語と同じように1つの言葉です。完璧でなくてもかまいません。積極的に英語を使い習得してほしいと思います。

(2) 学習の方法

- ・予習や授業で、意味の分からない語(句)があったら辞書を引きましょう。入学したらまず初めに辞書の使い方を学びます。辞書を使いこなすことが英語学習の第一歩です。
- ・文法をしっかり覚えましょう。英語を話したり書いたりするためには、豊富な文法の知識が必要です。
- ・授業中はできるだけ英語を使い、伝えたいことを積極的に英語で話したり書いたりできるように努力しましょう。

(3) 評価の方法

中学校と同様に、評価の観点は4つあります。カッコ内は評価方法です。

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・授業中のコミュニケーション活動を積極的に行うか。(観察)

②理解の能力(聞く力と読む力)

- ・英語を聞いて内容が理解できるか。(聞き取りテスト)
- ・英語を読んで内容が理解できるか。(ペーパーテスト)

③表現の能力(話す力と書く力)

- ・音読ができるか。(音読)
- ・暗唱ができるか。(暗唱)
- ・内容を英語でまとめることができるか。(作文)
- ・英語で自分の考えを書くことができるか。(作文)
- ・自分の話したいことを話すことができるか。(スピーキングテスト)

④言語や文化についての知識・理解

- ・英語独特の音を聞き分けることができるか。(聞き取りテスト)
- ・英語独特の音を発音することができるか。(発音テスト)
- ・単語や熟語の意味が分かるか。(ペーパーテスト)
- ・英語の語句順の知識があるか。(ペーパーテスト)

科目によっても違いますが、評価は定期考査(ペーパーテスト)だけではなく様々な方法で行ないます。毎時間の取り組みが重要です。

8. 家庭

(1) 学習へ向かう心構え

家庭は毎日の家庭生活の中で繰り返されながら行われている活動を、広範囲に、中学校より深く学習します。一人一人が自立した人間として一生健康で豊かな人生を送ることができるように、基礎的な知識と技術を身につけることを目指しています。そのためには、各自の家庭や社会情勢の変化、出来事等に関心を持ち授業に臨みましょう。2年から3年に進むにつれて内容が専門的になりますが、資格取得も考えながら学習しましょう。家庭の各科目には実習が多いので、欠席しないで真面目に取り組んでください。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

各科目で使用されている教科書には、授業前に必ず目を通しましょう。中学校より内容が深まっていますので、要点、大切な言葉等はアンダーラインを引くか、ノートに覚えやすいようにまとめることが大切です。

授業で使用したプリントや資料は、その日のうちにファイル・ノート等に整理してください。社会情勢に興味・関心を持つため、新聞に目を通して役立たせましょう。

(3) 評価の方法

家庭では評価の観点は次の4つになっています。

- ① 家庭や地域の生活に関心を持って授業を受けているか。実習の授業に積極的に参加しているか。
- ② 日常生活の中で問題点を見つけ、授業で習得したことを工夫し、適切な方法で解決できるか。
- ③ 家庭や地域で生活するのに必要な基礎的・基本的な技術を習得しているか。学習したことを家庭や地域で実践しているか。
- ④ 家庭や地域の生活に必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。授業で学んだことを日常生活に関連付けて理解しているか。

学習成績の評点は 100 点満点になります。各考査の成績と、日常の学習全般を見て総合的に評価します。考査の成績は 70 点分、日常の学習活動は 30 点分となります。(実習の多い科目はこの限りではない。) 日常の学習活動については、出席状況、授業および実習態度、ノート・資料プリント・製作品等の提出物、等で評価します。

9. 福祉

(1) 学習へ向かう心構え

福祉の学習は、社会福祉に関する基礎的な知識と技術を学び、福祉社会の一員としての心構えを身につけることを目指しています。そのためには、日頃から各自の家庭や社会情勢の変化、出来事、生活上の問題に関心を持ち授業に臨みましょう。福祉科目の中には専門的な実習がありますので、欠席しないで真面目に取り組みましょう。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

各科目で使用されている教科書には、授業前に必ず目を通しましょう。要点や大切な言葉などにはアンダーラインを引くか、ノートに覚えやすいようにまとめることが大切です。授業で使用したプリントや資料は、その日の内にファイルやノートなどに整理してください。社会福祉に興味・関心を持つため、新聞に目を通して役立たせましょう。

(3) 評価の方法

福祉では評価の観点はこの4つになっています。

- ①社会福祉に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に授業を受けているか。実習の授業に積極的に参加しているか。
- ②社会福祉に関する諸問題について、授業で修得した知識と技術を活用し、適切な方法で解決できるか。
- ③社会福祉に関する基礎的・基本的な技術を習得しているか。学習したことを家庭や地域で実践しているか。
- ④社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、社会福祉の意義や役割を理解しているか。

学習成績の評点は100点満点になります。各考査の成績と、日常の学習全般を見て総合的に評価します。考査の成績は70点分、日常の学習活動は30点分となります。(実習の多い科目はこの限りではない) 日常の学習活動については、出席状況、授業および実習態度、ノート・資料プリントなどの提出物などで評価します。

10. 情報

(1) 学習へ向かう心構え

情報の学習は、講義形式、個人学習、グループ学習、ディスカッション、コンピュータ実習、進路相談室での調べ学習など、さまざまな形態の学習活動を行います。また、評価は、ペーパーテストのみならず、実習への意欲や態度、プレゼンテーション(発表)、生徒の自己評価などを総合して評価します。したがって、それに向かう心構えとしては、積極性や前向きな学習態度を持つことが大切です。教科書の内容を覚えることも大切ですが、知識のみに偏らず、実習を通じて、問題の発見や解決能力、情報活用を高める能力を高めていき、実社会に役立てられるような実践力を身に付けることが最も大切です。まずは、次のようなことに気をつけてください。

- ① 授業はチャイムと同時に開始しますので、教材・教具を準備し、着席を完了してください。特に実習はコンピュータ室等を利用し、移動がありますので、遅れないように注意してください。
- ② 授業中は説明を確実に聞いてください。特にコンピュータなどの情報機器の操作については、手順通りに行わないと誤動作する場合があります、結果として他の人に迷惑をかけてしまう場合があるので十分注意してください。
- ③ 授業中に疑問点などがあれば、授業の進行に支障をきたさない範囲で、積極的に質問してください。
- ④ 提出物は確実に提出してください。

(2) 評価の方法

基本的な評価の仕方は冒頭には書きましたが、具体的には次のようになります。

- ① 期末考査の成績、ワークシート、レポート、プレゼンテーション資料などの提出物の内容、発表の仕方や内容、学習活動への参加の態度などで評価します。
- ② 学期全体の評価は、概ね、学年末考査の成績、レポート・プレゼンテーション資料・ワークシート等の提出物の内容、発表の仕方や内容、学習活動への参加の態度、コンピュータリテラシーの習熟状況を同程度に扱い、総合的に評価します。

なお、実習課題の未提出については大きくマイナスとなります。

1 1 . 農業

(1) 学習へ向かう心構え

主として植物の特性や栽培技術の理論を学習する座学と、植物の成長に応じた栽培の実践力を身につける体験学習(実験・実習)の組み合わせで学習が進められます。このため、農業科学系列の科目を学習する場合には、次のような点を常に考えて行動することが必要です。

- ① 自分や他人の命を守るために必要な行動
- ② 体験を通して得た大事なことを記録する態度
- ③ 主体的・自立的に学習する態度
- ④ 知的好奇心を常に持つこと
- ⑤ 対話を大切にすること
- ⑥ 自己評価できる力を身に付ける
- ⑦ 五感を通して個性を発揮すること

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

高校に入学して初めて学ぶ科目です。専門用語が多く出ますので、常に不明なことは自分で調べるといった態度が必要です。授業の時にはしっかりとノートにまとめ、実験・実習の時は、要点や感想を後でノートに整理・記入することが大切です。

(3) 評価の方法

農業では、次の4つが評価の観点になっています。

- ① 農業に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組めたか。創造的・実践的な態度を身に付けているか。
- ② 農業に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断できたか。創意工夫する能力を身に付けているか。
- ③ 農業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、作業を合理的に計画し、適切に処理することができたか。成果を的確に表現できたか。
- ④ 農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識が身に付いているか。農業の意義や役割を理解しているか。

原則として体験学習(実験・実習)を伴う科目は、実習時の服装・行動・態度・記録・出欠状況などが50点、考查成績等50点で評価されます。体験学習(実験・実習)の少ない科目は、考查成績等70点、日常の学習状況(出欠・提出物・参加状況など)が30点で評価されます。

12. 工業（土木）

(1) 学習へ向かう心構え

一言で「土木」といっても多岐にわたります。いっぺんに「土木」のことは理解できないので、便宜上分野別に学習します。開講している科目をすべて学習することで初めて「土木」を勉強したことになるのです。まずは1年で「測量」と「工業技術基礎」をがんばっていきましょう。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

どの教科・科目でもいえることですが、授業の時にはしっかりとノートをとりましょう。断片的には理解しづらいこともあるかもしれませんが、大きな項目が終わった後やテスト前に勉強したときに「なるほど！そういうことだったのか！」と思うことがたびたびあります。そういうときにはやはり「授業のノート」がものをいいます。授業をしっかり聞いて理解を深めていって下さい。「授業」を受けた後は「復習」として授業でやったところの教科書を今一度黙読し、ノートに目を通しておけば、理解が深まります。頭の中でイメージできればしめたものです。さらに関連する「演習問題」にチャレンジできれば、もう完璧です。まずは、一つずつ理解するように努めてください。「テスト前にまとめて」という考えは捨てましょう。断片的には面白さがわからない部分もあるかもしれませんが、各分野の学習が終了するころにはあなたの頭の中にすばらしい「土木の世界」が広がっているはずです。さあ、がんばっていきましょう。

(3) 評価の方法

工業(土木)では、次の4つが評価の観点になっています。

- 工業(土木)に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組めたか。
- 工業(土木)に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫できたか。
- 工業(土木)の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現できるか。
- 工業(土木)の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業(土木)の意義や役割を理解しているか。

評価は各考査の成績と日常の学習活動全般で評価します。考査成績が70点、日常の学習活動が30点、合計100点満点となります。なお、日常の学習活動については、次の点を評価します。授業に積極的に参加したか。ノート、プリント、作品などの提出物を期限を守って提出したか。なお、「実習」「工業技術基礎」「製図」などは日常の学習活動と作品のできなどが大きなウエイトを占めます。担当の先生の指示にしっかりと従い、学習を進めていきましょう。

13. 商業

(1) 学習へ向かう心構え

商業の科目は、高校生になって同じスタートラインに立ち、初めて学習する科目がほとんどです。各分野に関する学習を通し、ビジネスに必要な基礎的・基本的な知識や技術を習得し、経済社会に対応できる態度と能力を身につけるよう学習を進めていきます。興味・関心を持って継続して努力することにより様々な資格取得も可能になりますので、授業を大切にしながら頑張りましょう。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

商業の科目は初めて学習する科目がほとんどなので、学習においては反復練習が大切です。授業に集中し、理解できないところをそのままにせず、すぐ先生に質問し疑問点を解決するように努め、教科書の練習問題や問題集の問題を繰り返し解くようにしましょう。また与えられた課題には、しっかり取り組み期限を守って提出するようにしましょう。

(3) 評価の方法

商業では評価の観点は4つになっています。

- ビジネスの学習に関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、問題を解決しようとする態度が身に付いているか。
- 授業で学んだ基礎的・基本的な知識をもとに、経済社会における出来事について考え判断し、自分の考えをまとめることができるか。
- 商業に関する基礎的・基本的な技術(資格等を含む)を習得しているか。また授業で習得した知識や技術を活用しているか。
- 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、商業の意義や役割を理解しているか。

学習成績の評点は、100点満点となります。評価は、各考査の成績と日常の学習活動全般をみて総合的に評価します。原則として考査の成績が70点分、日常の学習活動が30点分となります。なお、日常の学習活動については、主に次の点について評価します。

- 出席状況
- 授業に積極的に参加していたか
- ノートや問題集・プリント等の課題などの提出を期限を守って提出したか

実習を伴う実技科目においては、日常の学習活動の占めるウェイトが大きくなります。担当の先生の指示に従って、進んで学習に取り組みましょう。

14. 総合

(1) 学習へ向かう心構え

総合学科の目標である「社会に積極的、主体的に対応できる人材を育てる」の実現へ向けて、その基礎となる教養全般を支えることをねらいとした科目が「基礎教養」です。

「基礎教養」の学習内容は、各教科の基礎的な内容に加えて社会人として必要になる基礎知識やマナーなどを総合的に学びます。

知識・技能とともに人間的にも優れた社会人を目指し、教養文化系列の生徒が選択して受講することになります。いわゆる「勉強」だけでなく、社会に出てから学ぶことや、就職や進学の実験の際の手順についてもふれていきますので、自分の視野から見た必要性にとらわれることなく何事にも真剣に取り組む真摯な姿勢が重要になります。

(2) 学習方法(予習、復習の仕方や授業の受け方など)

- ① 基本的に授業内容は、示されることに加えて、既習事項が含まれていることが多いので、予習と復習を必ずやること。
- ② 資料、プリントなどをきちんとファイルする。
- ③ 欠席した分の授業内容は早めに確認、補充しておく。

(3) 評価の方法

考査の成績のみでなく、日常の学習活動として、出席状況、授業や実習への取り組みなども積み重ねながら、点数をつけていきます。

III 科目選択の仕方

1. 科目選択をする上での心構え

科目選択はこれからの自分の人生にとって大きく関わる、たいへん大事なことです。そのためには準備も必要ですし、心がけなければならないこともあります。次のような姿勢で科目選択に臨みましょう。

- 自分を深く見つめ、自分の適性や興味・関心のあることを一生懸命に考えましょう。
- 社会の動きを注意深く見つめ、職業というものを深く勉強しましょう。
- 将来、自分が就く職業について具体的に考え、自分の人生計画をたてましょう。
- 目標を達成するために、高校三年間の計画をたてましょう。
- 自分が必要とする資格にどのようなものがあるか、よく調べましょう。
- 自分なりによく考えたら、必ず先生や、保護者の方によく相談しましょう。
- 自分の立てた計画に責任を持ち、勉強する覚悟を固めましょう。

2. 科目選択の実際

一年次の科目は入学前(3月)のオリエンテーションと4月の「産業社会と人間」の授業で選択します。また、二・三年次の科目は一年次の科目「産業社会と人間」の授業において選択します。

(1) 日程など

【一年次の科目選択】

オリエンテーション …必履修の科目選択を提出します。未決定の場合は先生や保護者と相談して提出します。その後、自分の選択した科目を確認します。

4月「産業社会と人間」…様々なオリエンテーションを通して、総合選択科目を決定します。

【二・三年次の科目選択】

一年次の科目「産業社会と人間」の授業において二・三年次の系列を同時に決定します。

4月－説明会～科目選択の仕方、選択上の諸注意、日程の説明などを行います。

9月－科目選択～二・三年次に学習する系列を合わせて選択します。

10月－相談期間～先生や保護者と相談し、選択系列が適切かどうか確認します。

11月－決定～全体の時間割を考えながら自分の選択科目を決定します。

(2) 科目選択をする上で注意すること

科目選択は、自分の人生の一つの分岐点であると言えます。自分の将来についてよく考え、先生や保護者の方によく相談して、決めましょう。また、自分で選択した科目については責任を持ち、真剣に授業に取り組まなければいけないことは言うまでもないでしょう。

科目選択をする上で、特に注意することは次の通りです。

① 自分の進路希望が達成できる系列を選択しましょう

- 科目選択は、自分の進路希望の実現に密接に関わります。一年次の系列については、オリエンテーションでの説明をよく聞き、間違いの無い系列選択をしましょう。二・三年次の系列については、一年次で学ぶ「産業社会と人間」の学習に基づいて、自らの興味・関心・適性などをよく見極めた上で進路設計をし、その実現に生かせるような系列選択をしましょう。
- 資格取得に必要な科目や、進学に必要な科目などもあります。まずはそれぞれの科目について自分でよく調べ、不明な点などは先生に質問し、後で不都合が生じないように研究しましょう。
- 科目選択を間違えたことによって進路希望を達成できないということもあります。先生や保護者の方に必ず相談し、意見を聞いて、慎重に選択しましょう。

② 関連のある科目に注意しましょう

二・三年次の科目には、お互いに関連のある科目もたくさんあります。次のページの説明や、科目シラバスの履修条件によく注意しましょう。

③ 科目の特徴をよく調べましょう

二・三年次の科目、特に「総合選択科目」は、その多くが系列別に細かく分けられています。科目シラバスの履修条件や、備考欄によく注意して、自分の進路に合った科目を選択しましょう。

④ 自分で選択しましょう

私たち一人一人は進路希望のほか、得意・不得意、性格や興味・関心まで考えると、誰一人として同じ人間はおりません。したがって、選択する科目も、一人一人異なる場合ももちろんあります。友達が選択したから、などという理由では決して選択しないでください。自分にとって必要な科目を、自分で選択するようにしましょう。

(3) 系列選択をする上で注意すること

一年次に選択した系列を、進路希望の変更等を理由として二年次に変更することは可能です。ただし、三年次に再度系列を変更することはできません。

3. 科目の関連について

科目の中には、選択上の関連をもつ科目があります。その選択条件の中には、次のようなタイプのものがあります。

- ① 「科目 A」と「科目 B」は同時に選択すること。
例:「財務会計 I」と「原価計算」
- ② 「科目 A」を選択するためには「科目 B」を選択していなければならない。
例:「物理」と「物理基礎」
- ③ 「科目 A」を選択するためには「科目 B」と「科目 C」を選択していなければならない。
例:「数学Ⅲ」と「数学Ⅱ」、「数学 B」
- ④ 「科目 A」を選択するためには「科目 B」または「科目 C」を選択していなければならない
例:「総合実践」と「簿記」、「財務会計 I」
- ⑤ 「科目 A」と「科目 B」は同時には選択できない。(どちらか一方しか選択できない。)
例:2年次の「古典(2)」と「古典(4)」

これらの条件を満たさないと、履修を認められない場合もあります。よく注意して選択しましょう。

IV 科目ガイド

1. 1年次の科目について

1年次の科目は、次のようになります。文理系列は週32時間、土木系列とビジネス会計系列は週31時間、農業科学系列と教養文化系列は週30時間となります。

	教科	科目	単位数	備考		
必履修科目	国語	国語総合	4	全員履修		
	地理歴史	世界史A	2	全員履修		
	数学	数学I	3・4	全員履修	文理系列は4単位、文理以外の系列は3単位	
	理科	化学基礎	2	全員履修		
	保健体育		体育	2	全員履修	
			保健	1	全員履修	
	芸術		音楽I	2	全員選択履修	うち1科目を選択
			美術I	2		
			書道I	2		
	外国語	コミュニケーション英語I	3・6	全員履修	文理系列は6単位、文理以外の系列は3単位	
家庭	家庭基礎	2	全員履修			
情報	情報の科学	2	全員履修			
原則履修科目	総合	産業社会と人間	2	全員履修		

総合選択科目	文理系列	数 学 A	2		2科目(ビジネス会計系列は1科目)を選択します。 同系列の中から2科目を選択するようにしてください。		
		数 学 I	(4)	必履修科目			
		コミュニケーション英語 I	(6)	必履修科目			
	農業科学系列	農 業 と 環 境	2	うち1科目を選択			
		植物バイオテクノロジー	2				
	土木系列	工 業 技 術 基 礎	2				
		測 量	3				
	ビジネス会計系列	簿 記	5				
	教養文化系列	英 語 会 話	2				教養文化系列全員
		ア ン サ ン プ ル 演 習	2				うち1科目を選択
		素 描	2				
		生 活 の 書	2				
		農 業 と 環 境	2				
		工 業 数 理 基 礎	2				
商 品 開 発	2						

本校では選択科目によって、週2日、7校時授業を実施しています。一年次では文理系列、土木系列、ビジネス会計系列を選択した場合は、7校時の授業を下の表の様に開講する予定です。

	時間帯	月曜日	木曜日
1校時 ↓ 6校時	8:45～ ～15:05		
帰SHR・清掃	15:05～15:25		
7校時	15:25～16:15	コミュニケーション英語 I (6単位)、 数学 A、数学 I のいずれか 測量 簿記	コミュニケーション英語 I (6単位)、 数学 A、数学 I のいずれか

※月曜日は多くの部が休養日または自主練習日です。(大会前などの例外はあります)

二・三年次の選択に関わる科目もありますので、各科目の履修の条件に注意してください。また、特定の進路については、選択した方がよい科目がありますので、下の表を参考にしてください。

進路希望など	一年次で選択した方がよい科目	備考
保育系短大に 進学希望	音楽 I	音楽 I を履修しないと、二年次に音楽 II は選択できません。
美術系の学校 に進学希望	美術 I	美術 I を履修しないと、二年次に美術 II は選択できません。

2. 2・3年次の科目について

2・3年次の科目について、「必履修科目」は次の通りです。

	教科	科目	単位数		備考	
			2年	3年		
必履修科目	公民	現代社会	2		全員履修	
	地理歴史	日本史 A		2	全員選択履修 (日本史 B は2年次の増単)	うち1科目を選択
		日本史 B		4		
		地理 A		2		
	理科	物理基礎	2		全員選択履修	うち1科目を選択
		生物基礎	2			
		地学基礎		2	全員選択履修	うち1科目を選択
		科学と人間生活		2		
	保健体育	体育	3	2	全員履修	
		保健	1		全員履修	
	総合的な学習の時間		1	2	全員履修	

総合選択科目と自由選択科目については、科目シラバスを見てください。